成長軌道に乗る半導体市場

マンデーレビュー Monday Review

IT(情報技術)バブル崩壊から再び成長軌道に乗った半導体市場。WSTS(世界半導体生産能力統計)によると、04年の半導体市場も03年から19%増えて2年連続の2ケタ成長を予測している。一方、口径300ミリシリコンウエハーへの本格的な移行や微細回路化の伸展など、今後の技術動向からも目が離せない。半導体市場の最近の技術動向に関する動きをまとめた。

大型化・微細化が進展

「口径300ミリウエハーや、回路線幅0・13マイクロメートル以下の最先端技術への移行が進んでいる。さらに90ナノメートルの開発も本格化しており、微細化の流れはさらに加速する」

2月2日に行われた新金属協会シリコン部会の会見で、植田稔部会長(シルトロニック・ジャパン常務執行役員)は最近の半導体市場の技術動向についてこう説明した。

半導体基板材料であるシリコンウエハーは、代表品種の200ミリウエハーが昨年12月、00年のピークだった月259万枚の販売量を上回る268万枚となり、01―02年の最悪期から再び成長軌道に乗り始めた。

また、これに伴い300ミリウエハーの販売量も03年初の約19万枚から約40万枚まで拡大。半導体需要の回復に加えて、ウエハーの大型化も一段と加速した。

さらに回路線幅の微細化対応も進んでいる。WSTSによると、0・16マイクロメートル未満の生産能力(週)は03年1―3月期の24万8000枚から7―9月期には32万2500枚まで拡大している。

半導体の300ミリウエハーへのシフトと回路線幅の微細化対応は今後も続く見通しだ。

例えば米インテルは本年の設備投資計画の中で、90ナノメートルプロセス対応の300ミリウエハーの処理能力強化が投資の中心になることを明らかにしている。

韓国サムスンも300ミリウエハー対応の新工場建設や、システムLSIで最先端プロセスを採用したラインの構築を進めていく方針を示している。

国内企業もソニーや東芝、松下電器産業などが300ミリウエハーや90ナノメートル、あるいは65ナノメートルといった微細化対応を年明けに発表している。

ウエハーの大型化や微細回路化と並行して、ウエハー表面の平坦度レベルの向上や、表層の無欠陥化などの機能向上がシリコンウエハーメーカーに求められている。さらに、ハイエンド用途に対応したウエハーとしてSOI(シリコン・オン・インシュレーター)などのニーズも強まっており、今後は高機能ウエハーの市場拡大が予想される。

半導体市場では300ミリウエハーへの移行が進んでいる

2003年超硬工具 出荷10.6%増え2206億円

自動車・IT向け好調

超硬工具協会はこのほど、03年の超硬工具国内統計をまとめた。03年の総生産額は前年比12・7%増の2192億4000万円、総出荷額は同10・6%増の2206億2000万円となった。自動車やIT分野向けの需要が好調に推移したほか、輸出など外需の伸びが目立った。足元のペースで推移すると、本年度の総出荷額は00年度のITバブル時の水準に並ぶ見通し。

昨年は全体的に10―12月期の伸びが大きく、特に耐摩工具はデジタル家電向け超硬金型の需要増に伴い、12月の出荷額が前年同月比12・4%増となった。自動車分野では、国内で環境対策の設備投資が増えていることを映した。外需については、輸出額が前年比11・6%増の462億7000万円となり、総生産額の約2割を占めたほか、海外進出するメーカーが現地工場に国産工具を直接持ち込むケースが増えているという。

出荷額の内訳を見ると、まず全体の約3分の2を占める切削工具が15%近い伸び率を示した。耐摩工具は、04年もデジタル家電向けの需要が堅調に推移する見通し。鉱山土木工具は、公共投資の減少と工具の単価下落の影響で約15%減。焼結体・工具は、IT分野向けの需要が回復した一方で、セグメント工具など土建関係がやや低迷した。

詳細は別表の通り。

超硬工具 出荷統計

(単位:100万円、カッコ内は前年比=%)

	切削工具	耐摩工具	鉱山土木工具
2002年(通年)	136,875 (㊀5.5)	38,494 (㊀5.3)	6,861 (㊀3.8)
2003年(通年)	155,212 (㊉13.4)	40,233 (㊉4.5)	5,773 (㊀15.9)
2003年			
1―3月期	36,675 (㊉16.9)	9,615 (㊉6.4)	1,554 (㊀11.4)
4―6月期	39,524 (㊉15.1)	9,994 (㊉2.7)	1,443 (㊀15.7)
7―9月期	38,177 (㊉11.6)	10,126 (㊉3.8)	1,384 (㊀14.9)
10―12月期	40,836 (㊉10.5)	10,498 (㊉5.3)	1,392 (㊀21.3)

	焼結体・工具	その他工具	合計
2002年(通年)	12,901 (㊉8.6)	4,400 (㊀13.2)	199,531 (㊀4.9)
2003年(通年)	14,195 (㊉10.0)	5,189 (㊉17.9)	220,602 (㊉10.6)
2003年			
1―3月期	3,420 (㊉17.8)	1,135 (㊉10.2)	52,399 (㊉13.7)
4―6月期	3,656 (㊉17.2)	1,223 (㊉11.1)	55,840 (㊉11.7)
7―9月期	3,386 (㊉0.9)	1,196 (㊉10.3)	54,269 (㊉8.5)
10―12月期	3,733 (㊉6.0)	1,635 (㊉38.0)	58,094 (㊉8.8)

飲料用アルミニウム缶生産

(数量:トン、%)

	缶体	缶ふた	計	対前年度伸率
02年11月	15,348	8,727	24,074	8.9
03年10月	17,292	8,827	26,119	0.7
03年11月	13,123	8,432	21,555	㊀10.5

飲料用アルミ缶 2ケタ減り2万1555トン

11月生産 缶体・缶ふたとも低調

経済産業省は、03年11月の飲料用アルミニウム缶生産実績をまとめた。それによると、缶体、缶ふたを合わせた生産量は前年同月比10・5%減の2万1555トンとなり、2カ月ぶりにマイナスに転じた。缶体の落ち込みが、全体の足を大きく引っ張っている。

内訳を見ると、缶体は生産1万3123トン(同14・5%減)、缶ふたが8432トン(同3・4%減)で、いずれも低調に推移した。

詳細は上表の通り。

銅、黄銅系5―15円値上げ

大阪商報値

大阪非鉄金属商工協組・市況研究部会(川岸俊之部会長)は先週末13日、当面の地方買い入れ値(商報値)を前回(2月4日)に比べて銅系原料をキロ当たり10―15円、黄銅原料を同5円の連続値上げとする方針を固め、即日実施した。

指標となる2月積み産銅建値が5日に続き海外相場の高騰を背景に、トン33万円と97年8月以来の高水準に追加値上げされた事に伴う措置。なお、アルミ原料は据え置いた。

当面の商報値は次の通り(単位=キロ当たり円、カッコ内は前回比。

▽新1号光=225(㊉15)▽込銅=170(㊉10)▽下銅=150(㊉10)▽ゆわかし=130(㊉10)▽黄銅鋳物=100(㊉5)▽並黄銅=85(㊉5)▽雑黄銅削粉=75(㊉5)▽機械アルミ=75(0)▽込アルミ=55(0)

銅、黄銅系地方値を引上げ

名古屋銅親会

【名古屋】協同組合名古屋銅親会・業務部会(榎治男委員長)は13日、当面の地方原料買い入れ標準価格を検討した。その結果、銅系10―15円、黄銅・青銅系10円のアップとする方針を決め、即日実施した。

価格は次の通り(単位=キロ当たり円。条件は持ち込み価格。カッコ内は上げ幅)。

▽新一号銅線(ピカ線)=225(15)▽並銅=170(10)▽新切黄銅(コーペル)=140(10)▽青銅鋳物=135(10)▽機械鋳物アルミ=75(0)

浴室ドアシリーズ一新

トステム 安全性に配慮

トステムは、浴室出入口用ドアを一新し、今月から販売を開始した。

今回の「浴室ドアシリーズ」の主な特長は、非常時救出機構を採用し安全性に配慮しているほか、チャイルドロック機能なども装備した点。また、意匠性の高いデザインを取り入れ、リフォーム対応商品も用意した。

なお、価格は、「開きドアWD型」が4万6200円、などとなっている。

「浴室中折れドアWF型」施工例

アルミ板など一部製品値上げ

米カイザー

【ニューヨーク発ロイター=ES時事】米アルミ大手カイザー・アルミナムは前週、6000シリーズの熱処理アルミ板とプレート製品の価格をポンド当たり10セント引き上げると発表した。また、2000シリーズと7000シリーズの熱処理プレート製品の価格も同5%引き上げる。

新価格は2月11日以降の新規受注分と3月1日以降に出荷予定の製品に適用される。

ただ、既存契約は履行され、2000、7000両シリーズのアルミ板製品およびコイル製品は値上げされないと付け加えた。

同社は昨年12月、金属などのコスト上昇を理由に圧延シート製品の値上げを行ったが、今回の値上げの理由については言及していない。

アルミ加工製品やアルミナ、アルミ新地金を生産している同社は2002年2月、連邦破産法11条に基づく会社更生手続きの申請を行っている。

03年アルミナ生産232万トン

伯CVRD

【ロンドン発DJ時事】ブラジルの鉄鋼大手バレ・ド・リオ・ドセ(CVRD)は、昨年の同社のアルミナ生産高は精製所の拡大などにより、前年比40・3%増の232万3000トンと過去最高に達したと発表した。

また、昨年第4・四半期のアルミナ生産高は62万5000トンに上った。

米国 1月のアルミ新地金生産 21万6154トンと微減

【ニューヨーク発ロイター=ES時事】米アルミ協会(AA)が発表した業界調査によると、1月の同国のアルミ新地金生産量は21万6154トンと、前月の22万1409トンから減少した。前年同月の生産量は24万2078トンだった。

同統計によれば、1月の生産量は年率ベースで255万2012トンと、前年同月(285万2273トン)比10・5%減少した。前月(260万9122トン)比でも2・1%の減少となった。

また、1月の1日平均生産量は6973トンだった。前月は7142トン、前年同月は7809トンだった。

同協会のホームページ上に掲載された別の報告によれば、カナダのアルミ協会が発表した1月のカナダのアルミ新地金生産量は、23万7193トンと、前月の23万9018トンを下回った。ただ、前年同月(23万3971トン)は上回った。

1月の生産量0266トン。前月(281万4150トン)比0・5%減少したが、前年同月(275万4655トン)を上回った。

カナダの1月の1日当たり平均生産量は7651トン。前月は7710トン、前年同月は7547トンだった。

第4四期ニッケル生産量は2万7000トン

Fブリッジ

【トロント発ロイター=ES時事】カナダの鉱業大手ファルコンブリッジはこのほど、2003年10―12月期の精製ニッケル生産量が2万7058トンだったと発表した。通年では10万4410トンとなり、過去最高を記録した。02年は9万1833トンだった。

自己株式95万3000株を市場買い付け

キッツ

キッツは12日、商法第210条の規定に基づき、自己株式の市場買付を実施したと発表した。買い付け株式数は95万3000株、総額1億6004万3900円に上る。

売上げ増も営業利益ダウン

4―12月期連結 (キッツ)

キッツ(小林公雄社長)の03年4―12月期連結業績によると、伸銅品事業は鉛レス銅合金や耐脱亜鉛材など特殊材の拡販や一般材の増加などから売上高は前年同期比14・8%増の51億1600万円となった。ただ、原材料市況の高騰により、営業利益は同76・2%減の1400万円にとどまった。

一方、バルブ事業は水道用バルブが低調に推移したものの、建築関連・プラント向けが堅調、半導体製造装置用バルブも秋以降に回復に向かったことから国内売上高は前年同期に比べて3・1%増加した。ただ総売上高では主要拠点である北米市場が不振に終わったため、同0・1%減の422億5700万円となった。また、損益面では単体での増益やタイ・台湾の製造子会社が堅調に推移したことなどから、第3四半期累計の営業利益は同43億700万円となった。

サービス・その他の事業では、ウェルネス事業が新店効果で堅調に推移したため、売上高は同4・8%増の62億6000万円、営業利益は同223・5%増の4億2100万円となった。

04年3月期利益を下方修正

タツタ電線

タツタ電線の03年4―12月の連結業績は、電子材料の好調維持と銅価上昇などにより、売上高は189億200万円と当初予想より微増。しかし一方の利益面では、光ファイバケーブルと電力向けメタルケーブルの販売減少のほか、銅価上昇分の販売価格への転嫁が遅れたことなどで、経常利益は4億4800万円と予想を下回った。当期純利益も1億3100万円と、法人税の調整額増加などの影響を受けた。

この結果、04年3月期の業績予想は、単体業績の悪化、競争激化に伴う子会社環境分析事業の伸び悩み、さらに子会社が加入している総合型厚生年金基金の積み立て不足に対する引当計上などを理由に、連結の売上高を除いて下方修正した。修正予想は次の通り。(単位=100万円、カッコ内は前回予想)

【連結】▽売上高=25、300(25、300)▽経常利益=600(820)▽当期純利益=150(300)

【単体】▽売上高=20、700(20、800)▽経常利益=300(450)▽当期純利益=100(200)

04年3月期利益を上方修正

リョービ

大手ダイカストメーカー、リョービは04年3月期の連結純利益を123億円に上方修正した。従来予想は114億円。主力のダイカスト事業、印刷機器が好調に推移しているため。

03年4―12月までの連結売上高は1146億3000万円。ダイカスト事業が国内外で自動車向けに堅調に推移したほか、印刷機器事業も国内販売、輸出ともに伸びた。

また、コストダウン、生産性の向上を進めた結果、売上高営業利益率は約6・4%と前年度の5・4%から1%向上した。

今年度の連結純利益は前年度比約2・5倍の大幅増収となる。本業が好調なほか、上期に実施した投資有価証券の売却益82億1300万円を計上するため。

国内苦戦も海外子会社堅調

日本電池

日本電池の03年4―12月期の連結業績は、売上高746億3100万円、営業利益12億8000万円、経常利益15億2800万円となった。

電池・電源事業では、補修用自動車バッテリーが冷夏や暖冬の影響を受けて低迷。産業用鉛蓄電池および電源装置は、秋口より情報通信関連向けが好調であったことや、官需前倒しなどの好影響を受けた。照明器・特機事業は、引き続き順調に売上高を伸ばした。

また国内販売会社は、補修用バッテリーの需要冷え込みで苦戦しているものの、海外子会社(台湾・中国天津・ベトナムなど)や持分法適用関連会社(タイ・インドネシアなど)の業績はおおむね堅調に推移した。

なお通期の業績予想は、当初予想に近いまま推移しているため、修正の必要はないとしている。

人事異動

古河電気工業 (2月16日付)

▽ネットワーク事業部長兼製造部長=三輪景一
▽古河物流出向(ネットワーク事業部製造部長)岩瀬和夫
▽平塚事業所資材第一課長(平塚事業所資材第一課主査)小池敏明
▽資材部主査(〃資材第一課長)前川直之

日本軽金属 (2月16日付)

▽容器部長=長井一夫

東京工業品取引所

2月13日

出来高は金1枚キログラム、白金1枚500グラム(グラム当たり円)
銀1枚30キログラム、(10グラム当たり円) アルミ1枚10トン(キロ当たり円)

▽金

	2月限	4月限	6月限	8月限	10月限	12月限	出来高
前日引値	1,392	1,392	1,398	1,397	1,398	1,394	
始値	1,396	1,396	1,397	1,397	1,397	1,396	
高値	1,398	1,398	1,400	1,400	1,400	1,399	
安値	1,395	1,396	1,397	1,396	1,397	1,396	
終値	1,398	1,398	1,397	1,400	1,399	1,398	
出来高	341	649	1,093	3,240	11,654	55,459	72,436

▽銀

	2月限	4月限	6月限	8月限	10月限	12月限	出来高
前日引値	220.1	221.9	220.2	219.6	218.8	218.0	
始値	220.8	222.2	221.8	221.9	220.2	219.5	
高値	222.2	222.2	221.8	221.9	220.3	219.9	
安値	220.8	220.8	220.3	219.9	219.5	219.0	
終値	222.2	221.0	220.4	220.9	220.1	219.5	
出来高	4	47	184	96	603	7,195	8,129

▽白金

	2月限	4月限	6月限	8月限	10月限	12月限	出来高
前日引値	2,875	2,829	2,789	2,758	2,722	2,704	
始値	2,885	2,832	2,801	2,766	2,740	2,723	
高値	2,917	2,875	2,843	2,810	2,770	2,750	
安値	2,885	2,832	2,801	2,766	2,738	2,722	
終値	2,917	2,875	2,843	2,810	2,767	2,750	
出来高	156	401	900	1,619	7,724	31,063	41,863

▽パラジウム

	2月限	4月限	6月限	8月限	10月限	12月限	出来高
前日引値	812	811	810	810	810	809	
始値	822	822	823	820	817	825	
高値	824	822	823	829	829	827	
安値	821	821	823	816	817	815	
終値	822	821	823	824	822	821	
出来高	21	2	1	265	229	1,470	1,988

▽アルミ

	2月限	3月限	4月限	6月限	8月限	10月限	出来高
前日引値	184.8	185.5	185.4	186.2	186.0	185.3	
始値	185.9	185.6	185.5	186.9	187.1	187.0	
高値	186.2	186.9	186.8	188.1	187.8	187.9	
安値	185.8	185.4	185.5	186.9	187.1	186.9	
終値	185.8	186.1	186.2	187.3	187.8	187.5	
出来高	24	193	280	233	704	2,166	3,600

大阪商品取引所

(出来高は1枚5トン、キロ当たり円)

▽アルミ

	3月限	5月限	7月限	9月限	11月限	1月限	出来高
前日終値	184.9	185.0	185.4	185.2	184.9	183.5	6,821
前場1	186.1	186.2	185.9	186.0	184.9	184.6	2,372
2	186.1	186.2	186.3	186.2	185.1	184.8	1,569
3	186.5	186.8	186.7	186.3	185.2	185.1	2,392
後場1	186.5	186.6	186.5	186.1	185.4	185.7	2,191
2	186.5	186.6	186.5	186.1	185.4	185.7	1,339
3	186.3	186.6	186.5	186.2	186.9	185.0	4,410

(出来高は1枚1トン、キロ当たり円)

▽ニッケル

	3月限	5月限	7月限	9月限	11月限	1月限	出来高
前日終値	1679	1661	1652	1635	1629	1630	761
前場1	1679	1664	1655	1652	1636	1639	152
2	1682	1667	1658	1659	1645	1649	255
後場1	1689	1670	1661	1650	1636	1648	306
2	1689	1672	1645	1657	1620	1642	416
3	1689	1672	1685	1674	1642	1643	612

国際地金価格比較

東京外国為替(東京三菱銀行)相場 2月13日

TTS(輸入)		TTB(輸出)	
米国ドル	106.41	米国ドル	104.41

【LME(セツルメント)ベース】

(トン当たりドル)

◎銅Aグレード			
LME 2,708.00	日本円換算	288,158円	
理論輸入採算値(フレート諸チャージ込み需要家入荷ベース)		327,986円	
理論輸出採算値(FOB日本渡し)		282,742円	
◎アルミハイグレード			
LME 1,704.00	日本円換算	181,322円	
理論輸入採算値		192,201円	
◎錫ハイグレード			
LME 6,590.00	日本円換算	701,241円	
理論輸入採算値		751,241円	
理論輸出採算値		688,061円	
◎鉛			
LME 884.00	日本円換算	94,066円	
理論輸入採算値		122,066円	
理論輸出採算値		92,298円	
◎亜鉛SHG			
LME 1,083.00	日本円換算	115,242円	
理論輸入採算値		151,883円	
理論輸出採算値		123,517円	

【NYコメックスベース】

◎銅(ポンド当たりセント)			
2月限 124.25	日本円換算	291,400円	
3月限 124.15		291,166円	
4月限 123.45		289,524円	
理論輸入採算値	334,348円		(2月限)
理論輸出採算値	285,923円		(2月限)
◎アルミ(ポンド当たりセント)			
2月限 81.30	日本円換算	190,670円	
3月限 81.30		190,670円	
4月限 81.40		190,905円	
理論輸入採算値	202,111円		(2月限)
◎銀(トロイオンス当たりセント)			
2月限 662.00	日本円換算	22,648円	
3月限 663.70	(キロ)	22,706円	
4月限 665.10		22,754円	
理論輸入採算値	25,648円		(2月限)
理論輸出採算値	22,222円		(2月限)